

# ファン拡大 連携強化

会社設立やリーグ加入から10年の節目を迎える県内のプロスポーツ3チームが新年度、連携して観客に取組む。サッカー、野球、バスケットボールの垣根を越えたスポーツファン拡大を目指し、合同イベントなどを開く。10日、3社長が県庁を訪れ支援を求め、石井隆一知事は「県民の元気づくりにはスポーツ振興は不可欠だ」と述べ、前向きに後押しする考えを示した。

グラウジーズ

サンダーバース

カタール



石井知事(右)に3チームの連携への支援を求め、(左から)黒田、水森、酒井の3社長と県庁

バスケットボール男子の富山グラウジーズは2006、07シーズンからリーグに参加。富山は07年に運営会社ができた。これまでもイベントな

## 合同イベント 県も後押しへ

富山GRNサンダーバースは06年、サッカーJ3のカタールは07年に運営会社ができた。これまでもイベントな

どで連携する動きはあったものの単発だった。今回、10年の節目となり、土壌ができた。これからは発展的な取組が必要(富山グラウジーズの黒田祐社長)と3チームの考えが一致。それぞれバスケットリーグ開幕での活躍、J2復帰、独立リーグ日本一と目標は異なるが勝負の年を迎え、連携を強めることになった。

## 観客は減少傾向 成績に連動して推移

県内プロ3チームの観客動員数はいずれも減少傾向となっている。

3シーズンの1試合平均入場者数を見ると、カタールはJ2の13年が4474人、最下位だった14年は4266人に減少。J3の15年は2820人まで落ち込んだ。グラウジーズは1848人から1563人に減り、今季はここまで1669人。共に成績に連動して推移している。

サンダーバースは昨年、有名選手の加入効果もあってリーグで唯一、増加に転じたものの、参入当初に比べると大幅に減っている。

NPO富山スポーツコミュニケーションズの佐伯仁史理事長は、ファンが固定化していると分析し「勝敗を超えて真にスポーツ観戦を楽しめるマネジメントが大切」と指摘する。富山大人開発速科学部の神野賢治講師(スポーツマネジメント)は、3チームの連携を評価した上で「一過性では意味がない」と息の長い取組みを求めた。